

# ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!

解説書



## 教材概要

本教材は、幼稚園・保育所の子どもたちに、災害時の危険（場所・行動）について伝え、自分の身を守るための基礎的な知識や判断力を身に付けてもらうことを目指した教材です。

学習指導要領、幼稚園教育要領等のうち、以下のような内容を子どもたちに指導することを目的としています。

- ①危険な場所、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動すること。
- ②遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになること。

## [テーマ]

教材で取り扱うテーマは、下記のとおりです。

|                                                                                                | テーマ                                                 | 内 容                                                                                                                               | 解説書<br>該当ページ |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
|               | 知識 <b>災害について知る</b><br>[シート A・B]                     | ・災害の種類<br>・災害が起こると自分たちの住んでいる町はどうなるのか                                                                                              | P4           |
|             | 行動 <b>まずは自分の身を守る</b><br>[シート C・D]                   | ・危険な場所<br>[倒れてくるもの／動いてくるもの／落ちてくるもの]<br>・地震から身を守る行動                                                                                | P5           |
|             | 行動 <b>ルールに従い避難する<br/>(地震後の火災からの避難)</b><br>[シート E・F] | ・先生の指示に従う<br>・おはしも<br>[おさない／はしらない／しゃべらない／もどらない]                                                                                   | P7           |
|             | 行動 <b>できるだけ遠くの<br/>高いところへ避難する</b><br>[シート E・F]      | ・海や川からできるだけ離れた、高いところに避難する<br>・間に合わなければ、近くの高い頑丈な建物などの上階へ避難する                                                                       | P8           |
| <br>大雨・暴風・雷 | 知識 <b>風水害の危険を知る</b><br>[シート G・H]                    | ・危険な場所<br>[大雨：川の近く、低い場所、崖や山など土砂災害が起きる危険のあるところ／暴風：飛びそうなものの近く／雷：高い木や鉄塔の近く]<br>・避難の方法<br>[基本は指定緊急避難場所へ／状況により近くの安全な場所へ／緊急時は今いる建物の上階へ] | P9           |
|             | 知識 <b>雪害の危険を知る<br/>(大雪)</b><br>[シート G・H]            | ・危険な場所<br>[軒下／道路／除雪車の近く／急斜面／用水路や側溝]<br>・雪による事故<br>[雪崩／除雪作業への巻き込み／路面凍結による転倒や車との接触／雪や氷の落下／用水路や側溝への転落]                               | P11          |

# 教材の使いかた-1

## 【教材の仕様】

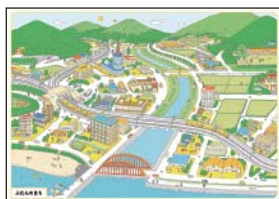
1. サイズ A1サイズシート(十字折り)

2. 枚数 17枚

[内訳]

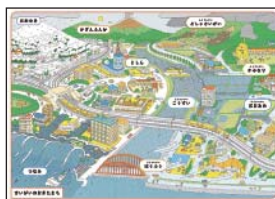
### ① シートA ……1枚(先生用)

表: ふだんのまち(導入)



### ② シートB ……1枚(先生用)

表: さいがいののおきたまち(導入)



### ③ シートC ……4枚(先生用1枚、子ども用3枚)

表: じしん① もんだい(地震)

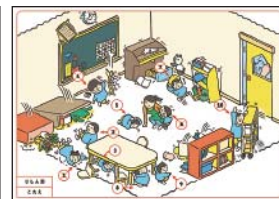
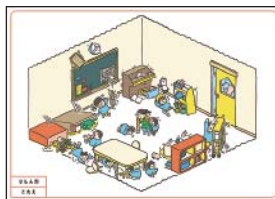
裏: じしん② もんだい(地震)



### ④ シートD ……1枚(先生用)

表: じしん① こたえ(地震)

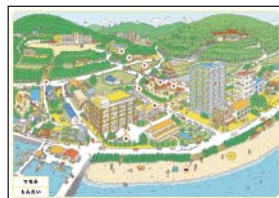
裏: じしん② こたえ(地震)



### ⑤ シートE ……4枚(先生用1枚、子ども用3枚)

表: ひなん もんだい(避難)

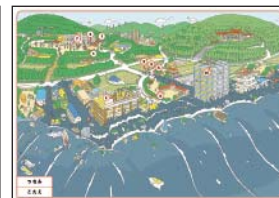
裏: つなみ もんだい(津波)



### ⑥ シートF ……1枚(先生用)

表: ひなん こたえ(避難)

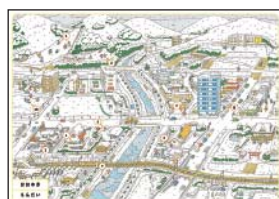
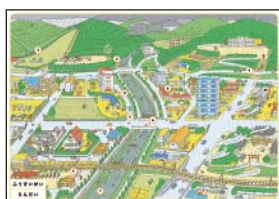
裏: つなみ こたえ(津波)



### ⑦ シートG ……4枚(先生用1枚、子ども用3枚)

表: ふうすいがい もんだい(風水害)

裏: おおゆき もんだい(雪害)



### ⑧ シートH ……1枚(先生用)

表: ふうすいがい こたえ(風水害)

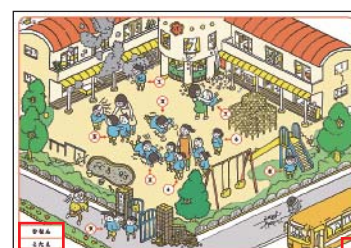
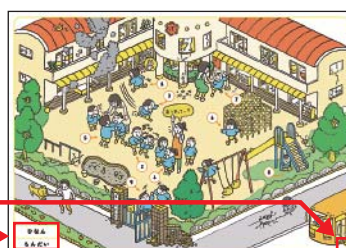
裏: おおゆき こたえ(雪害)



## 〈シートの選びかた〉

実施する時は、実施テーマの「もんだい」と「こたえ」のシートをセットで使います。各シート左下の「タイトル」、右下の「シート名」を確認し、必要なシートをご準備ください。

例:「避難」を実施する場合、シートE「ひなん もんだい」、シートF「ひなん こたえ」を使います。



ココに注目!

タイトル

シート名



## 教材の使いかた-2

【実施方法】 ※この実施方法は一例です。実施しやすいやりかたにアレンジしていただいて構いません。

### 1. どのテーマを実施するか決め、該当テーマのシートを用意します。

〈シートを用意する際の留意点〉

- ・1テーマあたり30分程度での実施を想定しています。所要時間や伝えたい内容に合わせていくつテーマを実施するかご検討ください。
- ・少人数から大人数まで、実施パターンは3つあります。やり方によって必要シート数は変わります(ページ下「実施方法の工夫」参照)。

### 2. 「もんだい」の絵を見せます。

「自分ごと」として考えてもらうため、子どもたちと以下のようなやりとりをすると良いでしょう。

- ・自分たちが住む町と絵の中の町を比べる[自分の住む町と重なるところを感じ取ってもらう]。
- (例) みんなが暮らしている町と、この絵の中の町、同じところがありますか？
- ・絵を見て、これからどんなことが起こりそうか考える[危険を察知する練習をする]。
- (例) 地震で家具が倒れそう! もし倒れたら、どうなるかな？
- (例) 川が溢れそう! この川が溢れちゃったら、どうなるかな？

※地震はもんだい①、②があるのでどちらかをお選びください。

### 3. 「もんだい」の絵の中の危険なところ(場所・行動)を子どもたちに探してもらいます。

- ・「もんだい」の絵は災害発生直前、もしくは発生中の絵となっているので、この後、町や人がどうなるのか予想し、危険なところを答えてもらいます。
- ・子どもたちの回答箇所に付箋を貼る(貼ってもらう)など、進め方を工夫しましょう。

### 4. 「こたえ」の絵を見せ、答え合わせをします。

- ・本冊子4ページ以降の解説を参考に、もんだいとこたえを横に並べて見比べながら答え合わせをしましょう。

※答え以外にも危険な場面が描かれているので、探してみましょう。



「もんだい」の絵(例)

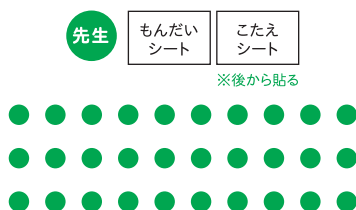


「こたえ」の絵(例)

〈実施方法の工夫〉 複数のシートを活用することで、下記3つのパターンに対応できます。

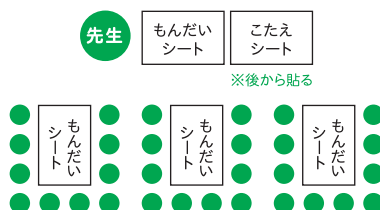
#### ① クラス全員へ一斉実施する

- ・先生: 「もんだいシート」と「こたえシート」をホワイトボード等に貼り実施する。
- ・子ども: 前に貼られた「もんだい」を見て参加する。



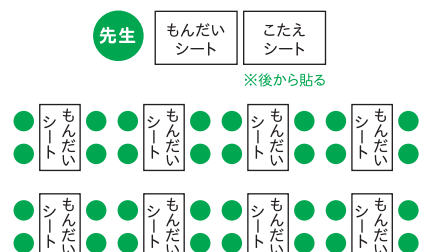
#### ② 10人程度のグループに分かれて実施する (最大3グループまで対応)

- ・先生: 「もんだいシート」と「こたえシート」をホワイトボード等に貼り実施する。
- ・子ども: 「もんだいシート」をグループ毎に床等に置き、それを見て参加する。



#### ③ 4~5人のグループに分かれて実施する

- ・先生: 「もんだいシート」と「こたえシート」をホワイトボード等に貼り実施する。
- ・子ども: A3版をダウンロードし必要数を印刷。各班に配布し、それを見て参加する。



A3版データは右のホームページから(無料ダウンロード) → <http://www.jrc.or.jp/activity/youth/prevention/>



## 〔伝える内容〕

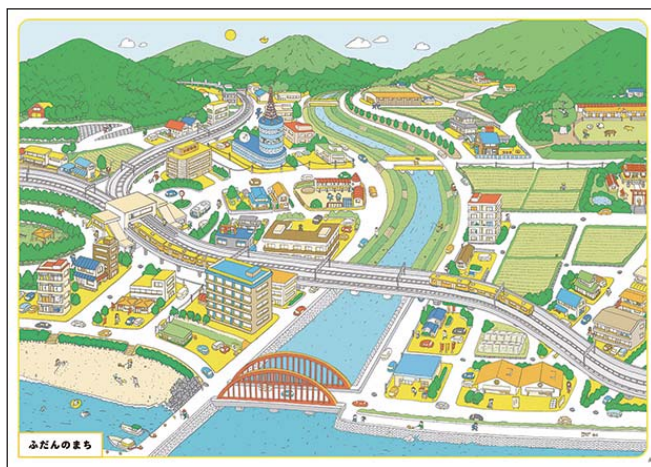
- 災害の種類
- 災害が起こると自分たちの住んでいる町はどうなるのか

## 〔解説ポイント〕

「ふだんのまち」、「さいがいのおきたまち」の絵を順番に見せ、下記のポイントを子どもたちに伝えてください。

### 1. ふだんのまち

- ・絵の中にあるような自然（海、山、川など）が身の周りにあるかどうか聞く。  
→ 私たちは、自然と共に暮らしている。
- ・絵の中の人々が何をしているか聞く。  
→ 「川・海で遊ぶ」、「木や自然の中で遊ぶ」、「田畑で食物を育てている」など、私たちは自然からの恵みを受けて生活している。
- ・自然は災害を引き起こし私たちの暮らしを壊してしまうことがある。でもそれが自然であり、恵みと怖さの両面を知ったうえで生きていくという心構えが大切。



### 2. さいがいのおきたまち

- ・みんなの町が災害に襲われると、絵のような被害が出る（絵の中の災害について説明する）。
- ・ひと通りの説明後、「今日はこの中で〇〇について学びましょう」などと伝え、実施テーマの話に移ると効果的です。

#### 地震

地面が大きく揺れて建物を壊したり家具を倒したりする。

#### 火山噴火

火山から高温の火山灰や溶岩などが吹き出し、大きな被害を引き起こす。

#### 土砂災害

雨によってがけが崩れたり（がけ崩れ）、大量の石や土砂が流れてきたり（土石流）する。

#### 大雪

積もった雪が大量に崩れ落ちる（雪崩）。

#### 雷

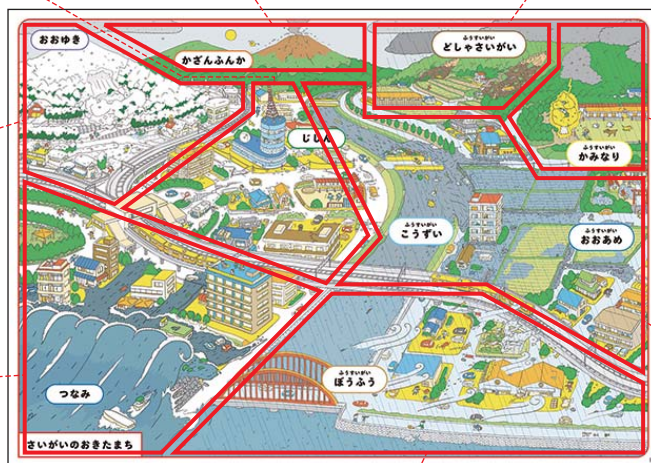
強い電流が木や建物などに一瞬のうちに落ち、死傷者や火事を引き起こす。

#### 津波

巨大な波が海から壁のように地上に向かって押し寄せ、人や建物、車などを押し流して破壊する。

#### 大雨（洪水）

川や用水路から水が溢れ、町が水浸しになる。



#### 暴風

強い風によって看板や屋根などが飛ばされる。

※「じしん①」と「じしん②」のシートは絵が似ています。ここでは「じしん①もんだい」、「じしん①こたえ」を使います。間違えないようにしましょう。

## 【伝える内容】

### ●危険な場所（倒れてくるもの／動いてくるもの／落ちてくるもの）

## 【実施の流れ】

1. **【じしん① もんだい】** の絵を見せます。
2. 次のように説明します。  
 「ここは、“ぼうさい幼稚園”。みんなのお友だちが通う幼稚園です。みんなが今いる部屋とこの部屋とで、同じところがありますか？（子どもたちの答えを聞く）そうですね！同じところがたくさんありますね。では、もしみんながこの絵の部屋にいる時に大地震が起こったら、どうしたら良いでしょう？（子どもたちの答えを聞く）そうですね！その時は、危険な場所からできるだけ離れなければなりません。」
3. 「ではこの部屋の中で、危険な場所を探してみましょう！見つけたら先生に教えてください。」  
 子どもたちに上記のように伝え、危険な場所についてやりとりをします。（①選んだ箇所、②その理由 など）。
4. 答えがひと通り出たら、**【じしん① こたえ】** の絵を見せます。
5. 問題と答えの **絵を見比べながら**、下の解説ポイントを、子どもたちに伝えてください。

## 【解説ポイント】

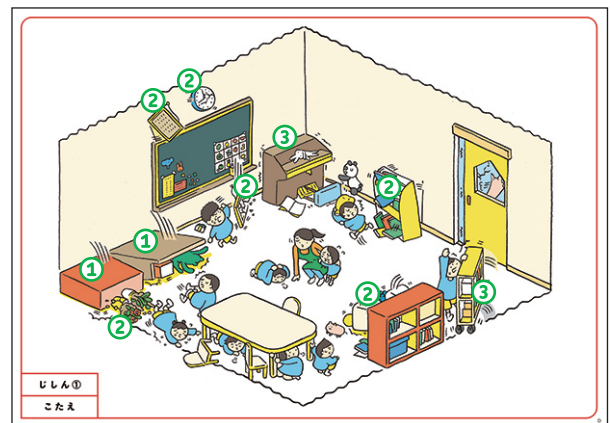
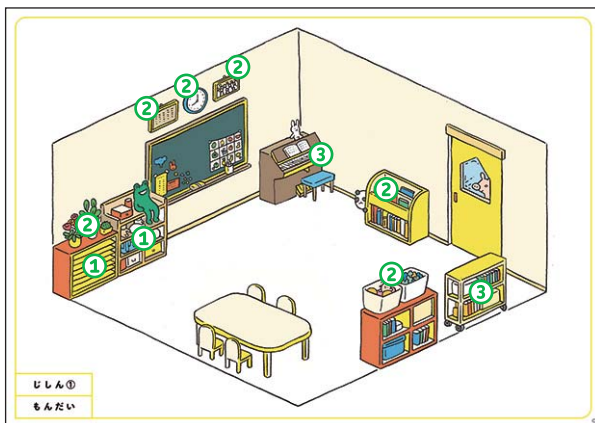
1. 地震の時、気をつけなければならないのは、「倒れてくるもの」、「落ちてくるもの」、「動いてくるもの」の3つです。地震が起こったら、それらからできる限り離れ、身を守ることを伝えましょう。また、いざという時でも動けるようにするために、ふだんから部屋の中のあぶないところを確認し、どこに逃げれば良いか考えておくことも大切です。

①倒れてくるもの…棚、本棚 など

②落ちてくるもの…花瓶、額縁、本、おもちゃ、時計、写真 など

※絵にはありませんが、蛍光灯（照明器具）やエアコン（空調機）などに注意することも伝えましょう。

③動いてくるもの…ピアノ、タイヤが付いた棚、ホワイトボード など



2. 今回は幼稚園（保育所）の部屋での話でしたが、お家でも同じことに気をつけ、どこに逃げれば良いか家族で話し合っておくことが大切です（部屋の中で家具が倒れて来ない場所はどこか／家の中に家具を置いていない場所はないか→廊下等）。

先生方へ

想像を超える揺れに襲われた時、人は怖くて動けません。そのため、まずは動かなくても大丈夫な安全な環境を作っておくことが大切です。建物内を確認し、「倒れたり動いたりする可能性のある家具は止めておく」、「落ちてくるものを棚の上に置かない」など、対策をしておきましょう。地震後は非常口を確保することも大切です。覚えておきましょう。



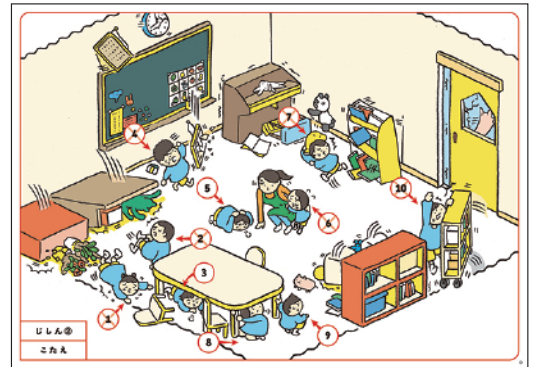
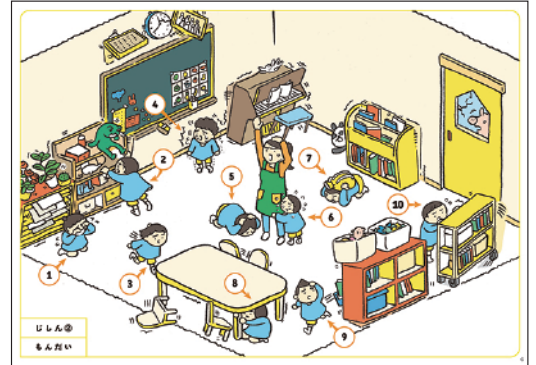
※「じしん①」と「じしん②」のシートは絵が似ています。ここでは「じしん②もんだい」、「じしん②こたえ」を使います。間違えないようにしましょう。

## 【伝える内容】

### ● 地震から身を守る行動

## 【実施の流れ】

1. **【じしん② もんだい】**の絵を見せます。
2. 次のように説明します。  
 「ここは、“ぼうさい幼稚園”。みんなのお友だちが通う幼稚園です。あれあれ、大きな地震がグラグラッと来たようです。  
 (絵の該当箇所を指し示しながら) あ! 家具がぐらぐらして、今にも倒れそう! 上に置いているものも落ちそう! みんなそれぞれ自分なりに行動しているようだけど、本当にこれで大丈夫!?  
 (間を置く) ……実は、絵の中にいる10人のお友だちの中に、間違ったこと、つまり、あぶないことをしてしまっているお友だちがいます。それはどの子でしょう? 見つけたら、どの番号の子か、教えてください。」
3. 子どもたちと、あぶないことをしてしまっている子どもについてやりとりします(①選んだ人、②その理由 など)。
4. 答えがひと通り出たら、**【じしん② こたえ】**の絵を見せます。
5. 問題と答えの **絵を見比べながら**、下の解説ポイントを、子どもたちに伝えてください。



## 【解説ポイント】

先生が近くにいない時に地震が起こったら、勇気を出して自分で考えて行動できるようになりましょう。

### ◎ 危険なもの(倒れてくるもの・落ちてくるもの・移動してくるもの)から離れる ◎ 頭や体を守る



✕ 怖くて泣いてしまい、倒れそうな棚があることに気づいていない。



✕ 倒れてくる棚を支えようとしているが、重くて支えられないので危険。



○ 倒れてくる棚に気づき離れようとしている(家具の背の高さ以上の距離)。



✕ 怖くて泣いてしまい、上から物が落ちてくることに気づいていない。



○ 倒れたり落ちたりしてこない場所で低い姿勢になり、頭を守っている。



✕ 泣きじゃくって先生の足にしがみつくと、先生を困らせてしまっている。



✕ 頭を守っているが、倒れてくる棚の前なので危険。



○ 机の下にもぐり足をしっかり持つ(転ばないようにひざをつけて座る)。



○ 落ちてくる物に気づき、落ちない方に離れようとしている。



✕ 動く棚を支えようとしているが、動いてぶつかる可能性があり危険。

先生方へ

子どもたちは、基本的には親や先生方に守られている存在ですが、地震が来た直後には、先生方の目や手が届かないことも考えられます。万が一ひとりであるときに命を守るにはどうしたら良いか、子どもたち自身が気づけるような働きかけをしましょう。地震時は、子どもを守るとともに、非常口を確保することも大事だと覚えておきましょう。



## 〔伝える内容〕

- 先生の指示に従う    ● おはしも（おさない／はしらない／しゃべらない／もどらない）

## 〔実施の流れ〕

1. **「ひなん もんだい」** の絵を見せます。
2. 次のように説明します。  
「ここは、“ぼうさい幼稚園”。みんなのお友だちが通う幼稚園です。何が起こっているのか、ちょっと様子を見てみましょう。門がこわれたり、建物から煙が出ていたりしています。また、先生が「あつまってー!」と声を掛けていますね。この絵は、地震のあと火災が発生し、みんなが園庭に避難してきている場面のようです。あれ？ちょっと心配な行動を取っている子どもがいますね。あの子たち、大丈夫かなあ？  
(間を置く)・・・実は、絵の中にいるお友だちの中に、間違ったこと、つまり、あぶないことをしてしまっているお友だちがいます。それはどの子でしょう？見つけたら、どの番号の子か、教えてください。」
3. 子どもたちと、あぶないことをしてしまっている子どもについてやりとりします（①選んだ人、②その理由 など）。
4. 答えがひと通り出たら、**「ひなん こたえ」** の絵を見せます。
5. 問題と答えの**絵を見比べながら**、下の解説ポイントを、子どもたちに伝えてください。



## 〔解説ポイント〕

避難の時に大事なことは、ルールに従い行動することです。勝手に行動してしまうと、みんなとはぐれたり逃げ遅れたりしてしまい、危険です。

## ◎ おはしも（おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない）

## ◎ 先生の指示に従う



❌ お気に入りのおもちゃを取りに戻り、煙に巻き込まれてしまった。



❌ 気持ちが焦り、前の子どもを押して転倒させてしまった。



❌ 列には加わず、走って前の方に行こうとしたが、転んでしまった。



○ 煙から身を守るため、ハンカチで口をおさえ、落ちて避難している。



❌ おしゃべりをして言い合いになり、後ろの人が進めなくなった。



○ 園庭で遊んでいたが、先生の指示に従い走らず、すばやく集合した。



❌ 怖くて泣いてしまい先生の言うことを聞かず、危ない目に遭った。



❌ 遊具の下で怖くてぶるぶるえていて、はぐれてしまった。



❌ 勝手な判断で門から外に出ようとして、はぐれてしまった。

先生方へ

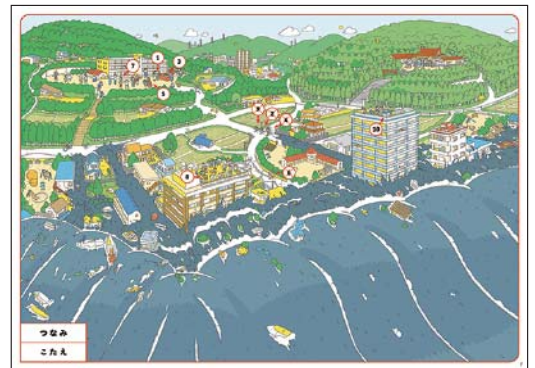
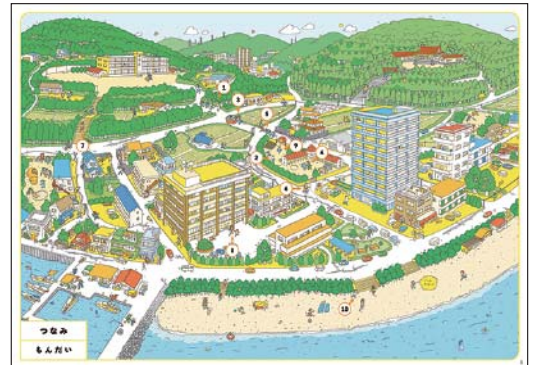
避難の際は、先生の指示に従って行動することが原則となります。子どもたちには、「お・は・し・も」などのルールの他、「先生の話を聞く」こともしっかり伝えましょう。また、普段から避難経路等を確認し、いざという時あわてないよう準備をしておきましょう。先生としては、子どもたちへの対処のほか、初期消火等も忘れずに行いましょう。

## 〔伝える内容〕

- 海や川からできるだけ離れた、高いところに避難する ●間に合わなければ、近くの高い頑丈な建物などの上階へ避難する

## 〔実施の流れ〕

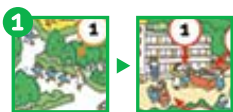
1. **「つなみ もんだい」** の絵を見せます。
2. 次のように説明します。  
「ここは、「ぼうさい町」。海の近くの港町です。ちょっと覗いてみましょう。  
(絵の該当箇所を指し示しながら) あっ、じしん! 大きな地震が起こったようです。津波が来るかもしれないので、海の近くにいる人達は、みな急いで高い所へ避難しなければなりません。早めに避難を始めている人もいますが・・・、あ!? あそこにいるあの子どもたち、大丈夫かなあ? このあとどうなってしまうんでしょう?  
(間を置く)・・・実は、絵の中にいるお友だちの中に、間違っただこと、つまり、あぶないことをしてしまっているお友だちがいます。それはどの子でしょう? 見つけたら、どの番号の子か、教えてください。
3. 子どもたちと、あぶないことをしてしまっている子どもについてやりとりします(①選んだ人、②その理由 など)。
4. 答えがひと通り出たら、**「つなみ こたえ」** の絵を見せます。
5. 問題と答えの**絵を見比べながら**、下の解説ポイントを、子どもたちに伝えてください。



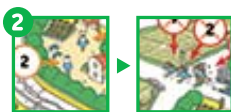
## 〔解説ポイント〕

海の近くで地震の揺れを感じた時に大事なことは、「とにかく遠く高いところに逃げる」ということです。海や川からできるだけ離れた高い場所に避難することがベストですが、間に合わない時は近くの高い頑丈な建物や津波タワーなどの高いところへ避難するなど、想定にとらわれず置かれた状況下で最善の行動をするという姿勢が必要です。

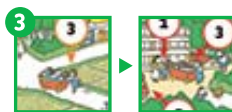
◎できるだけ早く海や川から離れた、高いところに逃げる。 ◎間に合わないときは近くの高い頑丈な建物の上階へ避難する。



- いち早く走って高台にある学校(洪水時の避難場所)に避難している。



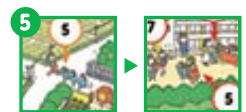
- ✕ 地震の揺れに茫然としていたら、津波に巻き込まれそうに。すぐに避難を始めることが必要。



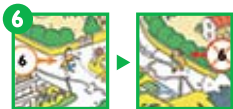
- 小さい子はお散歩車に乗って避難することもある。高台にある学校に先生たちと避難する。



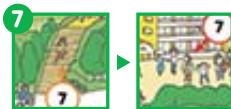
- ✕ 怖くてその場で泣いていたら、津波に巻き込まれそうに。すぐに避難を始めることが必要。



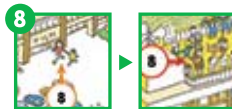
- 小さい子は早く歩けないので、手をつないで一緒に避難するなど、助け合うことが大事。



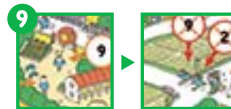
- ✕ お母さんが迎えに来て車のある低い方に帰ろうとした。低い方へは絶対に戻らず、車で避難もさける。



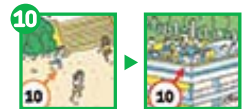
- 知り合いのおじさんに抱えられ避難している。大人(知っている人)の手を借りることも必要。



- 遠くの高い避難場所に行く時間がないときは、近くの頑丈なビルの屋上に避難する。



- ✕ カバンを取りに戻って津波に巻き込まれそうになりあわてて逃げた。一度避難したら絶対に戻らない。



- 海水浴等で遊びに来ていた人が、遠くまで行く時間がないため、近くの高い頑丈な建物の屋上に避難した。

先生方へ

「津波てんでんこ(てんでばらばらに)」という言葉があるように、海辺で大きな地震やゆっくり揺れる地震を感じたら、大津波が来ると考え、急いで高いところに走って逃げる必要があります。津波から逃げて助かるには、他の人とはぐれ、一人ひとりになっても、できるだけ海や川から離れた遠くの高いところに向かいましょう。また、家に帰ったら集合場所等、家族と話し合っておくことも大切であることも伝えましょう。



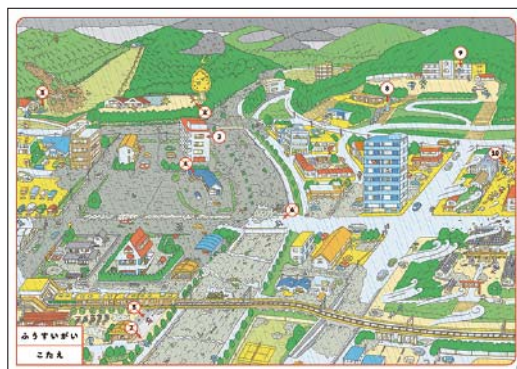
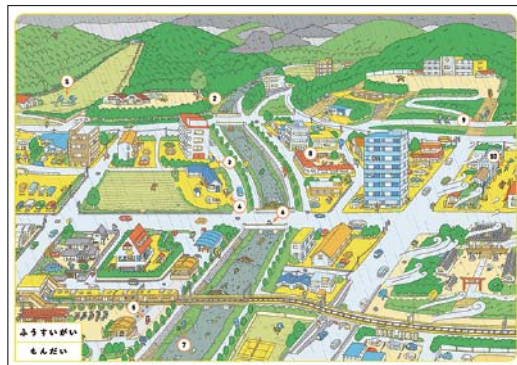
## 〔伝える内容〕

- 大雨、暴風、雷の際の危険な場所 ●避難の方法（基本は指定緊急避難場所へ／状況により近くの安全な場所へ／緊急時は今いる建物の上階へ）

※災害の危険が迫った時には、洪水や土砂災害、湛水危険など、災害事象に応じて避難先を選びましょう。

## 〔実施の流れ〕

1. 「ふうすいがい もんだい」の絵を見せます。
2. 次のように説明します。  
「ここは、“ぼうさい町”。みんなのお友だちがたくさん住んでいる町です。ちょっと覗いてみましょう。  
(絵の該当箇所を指し示しながら)大雨で空が真っ黒、川の水が増えて今にも溢れそう!風も強く吹いていて、看板などが飛びそうになっています。急いで帰ろうとしている子どももいるけど、まだ川の近くにいる子どもも!?このあとどうなってしまうんでしょう?  
(間を置く)・・・実は、絵の中にいるお友だちの中に、間違っただこと、つまり、あぶないことをしてしまっているお友だちがいます。それはどの子でしょう?見つけたら、どの番号の子か、教えてください。
3. 子どもたちと、あぶないことをしてしまっている子どもについてやりとりします(①選んだ人、②その理由 など)。
4. 答えがひと通り出たら、「ふうすいがい こたえ」の絵を見せます。
5. 問題と答えの絵を見比べながら、下の解説ポイントを、子どもたちに伝えてください。



## 〔解説ポイント〕

風水害は、いろいろな事象が一度に起こることがあるので、「大雨(河川の洪水／内水氾濫／土砂災害)」、「暴風」、「雷」の3つのテーマを1枚の絵に落とし込んでいます。一度に実施することもできますが、説明のしかたが難しいようであれば、3つのうちいずれかの災害のみを選んで実施してもよいでしょう。

### 〔実施のヒント〕

風水害の絵は、個別に説明できるよう、災害ごとに場所を分けて描いています。1つずつ説明する時は、見てもうエリアを絞って実施するなど、工夫しましょう。

#### ●エリア1-1: 洪水、内水氾濫

〈洪水〉大雨などで川の水が増え、堤防が壊れたり、堤防を越えて水が溢れたりすること。

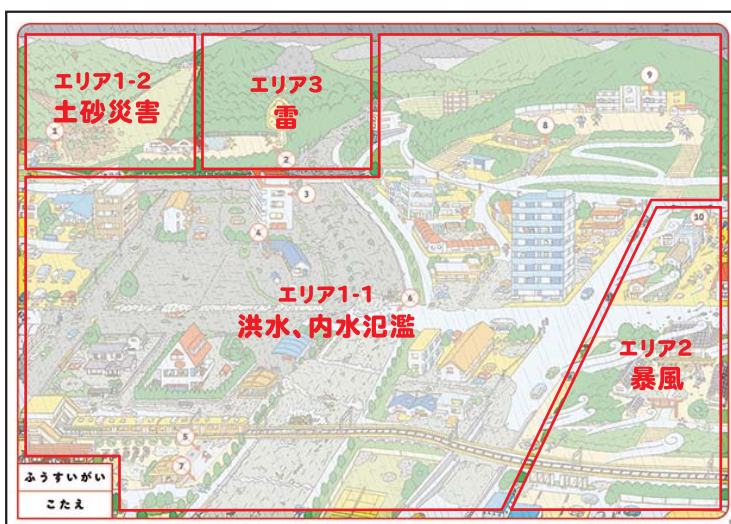
〈内水氾濫〉降った雨を下水道などが流しきれず、道路や町中で溢れてしまうこと。

#### ●エリア1-2: 土砂災害

がけ崩れ(雨や地震により斜面が崩れ落ちる)、地すべり(雨水が地面にしみ込んだりして地面がすべるように動く)、土石流(大量の山の土砂が雨水とともに押し流される)の3種類がある。

#### ●エリア2: 暴風

#### ●エリア3: 雷





## 大雨(洪水／内水氾濫／土砂災害)

雨が引き起こす災害として、洪水、内水氾濫、土砂災害があります。大雨で危険を感じた時は、「川や斜面には近づかず」、「早めに指定された避難場所に移動する(立退き避難)」ことが大事です。また、もし危険を感じたら、無理に避難所を目指さず、「近くの建物の屋上など高い場所に移動したり(立退き避難)、今いる建物の上階に移動する(屋内安全確保)」ことを考えましょう。

### 〈参考〉避難の方法

#### たちの立退き避難

・浸水、土砂災害の危険度が高い地域にいるとき  
 ・時間と安全な避難経路が

確保できるとき

指定緊急避難場所



確保できないとき

近くの安全な場所



#### 屋内安全確保

・外へ出るほうが  
 かって危険なとき

今いる建物の上階(2階以上)

土砂災害時は上階の山と反対側の部屋



#### 洪水

- ◎ 川には近づかない。◎ 早めに避難場所に移動する。
- ◎ 間に合わないときは自宅や近くの建物の上階に避難する。



○ 近くの4階建ての建物に避難。時間がいない時は近くの高い建物の上階に逃げる。



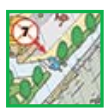
× 近くの平屋の家に避難。低い場所に避難するのは間違い。



× 橋の上から川が溢れそうになるのを見ている。川に近づかないこと。



× 河原で魚を採っているが、増水しておりすぐに避難しないと危険。



○ 川沿いにある幼稚園。川が近いので早めに避難する。



× 天気が荒れてきたと感じたら、余裕を持って早めに避難場所へ移動する。



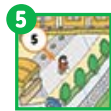
#### 内水氾濫

- ◎ 地下道やアンダーパス、窪地には近づかない。

※アンダーパス…線路などの下をくぐる谷のように落ち込んだ道路

- ◎ 用水路、マンホールにも注意。

※処理しきれない雨水などが溢れ出ることがあります。



× 地下やアンダーパスは水が溜まりやすく危険。すぐに離れること。

#### 土砂災害

- ◎ 早めに避難場所に移動する。
- ◎ 間に合わないときは斜面と反対側の2階以上に移動。



× がけや斜面はがけ崩れや土石流が発生する可能性があるため、すぐに離れること。

## 暴風

風によってものが飛んだりするので、なるべく出歩かないようにしましょう。もし外にいた場合は、飛んできそうなものから離れ、早めに建物の中に避難しましょう。

- ◎ 早めに屋内へ避難する。
- ◎ 飛んできそうなものには近づかない。



× 風で飛びそうな看板の近くにいるのが危険。建物内に避難、または飛びそうなものから離れること(瓦も飛びやすいので、瓦屋根の下も危険です)。

## 雷

雷は背の高いものや金属類に落ちます。建物内に早めに避難することが有効ですが、すぐに建物に入れない時は、高い木や鉄塔などから離れましょう。避雷針となるものがない広い場所も危険です。

- ◎ 背の高いものには近づかない。
- ◎ 何もない広い場所も危険。



× 高い木の下で雨宿りしているが、雷が落ちやすく危険。木から離れ、近くの建物内に避難を。また、傘やベルトなど金属製のものは持たないようにする。

先生方へ

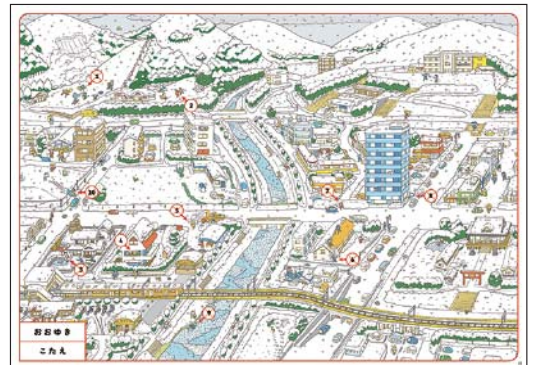
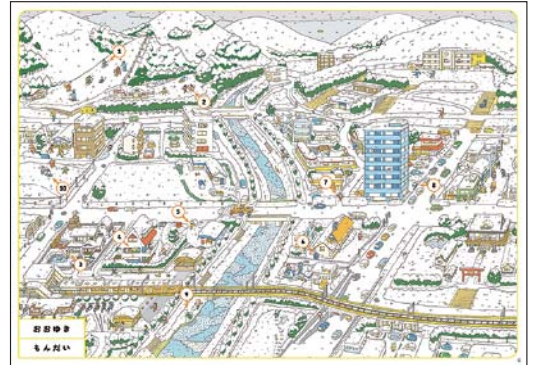
避難する時は子どもだけで行動せず、先生や家族など大人と一緒に行動するように伝えましょう。出掛ける時は天気予報でその後の天気をチェックしたり、外出先で急に天気が悪くなってきた時には気象ニュースや行政の避難情報を確認したりするなど、余裕を持った避難のためには情報収集が大事だということも、必要に応じて伝えましょう。

## 【伝える内容】

- 危険な場所（軒下／道路／除雪車の近く／急斜面／用水路や側溝）
- 雪による事故（雪崩／除雪作業への巻き込み／路面凍結による転倒や車との接触／雪や氷の落下／用水路や側溝への転落）

## 【実施の流れ】

1. 【おおゆき もんだい】の絵を見せます。
2. 次のように説明します。  
 「ここは、“ぼうさい町”。みんなのお友だちがたくさん住んでいる町です。ちょっと覗いてみましょう。  
 （絵の該当箇所を指し示しながら）雪がたくさん積もっていますね！除雪車や雪下ろしをしている人も見えます。あれ！？あそこを歩いているあの子どもたち、大丈夫かなあ？このあとどうなってしまうんでしょう？  
 （間を置く）…実は、絵の中にいるお友だちの中に、間違っただこと、つまり、あぶないことをしてしまっているお友だちがいます。それはどの子でしょう？見つけたら、どの番号の子か、教えてください。」
3. 子どもたちと、あぶないことをしてしまっている子どもについてやりとりする（①選んだ人、②その理由 など）。
4. 答えがひと通り出たら、【おおゆき こたえ】の絵を見せます。
5. 問題と答えの絵を見比べながら、下の解説ポイントを、子どもたちに伝えてください。



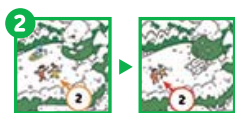
## 【解説ポイント】

軒下（雪やつらが落ちてくる）、道路（滑りやすい）、用水路や側溝（見えづらく落ちてしまう）など、積雪時には普段以上に危険箇所が増えます。急斜面での雪崩や除雪作業に巻き込まれる、渋滞で長時間車内にいることによる一酸化炭素中毒など思わぬ事故も発生するので一層の注意が必要です。 ※下記の10個の答え以外にも危険な場面が描かれているので探してみましょう。

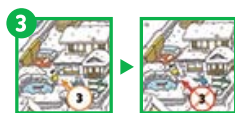
### ◎ 積雪時には屋根、道路、用水路など周囲の様子に注意する。 ◎ 無理に外出しないようにする。



❌ スノーボードをしていて雪崩に巻き込まれそうに。危険を感じたらすぐに避難する。



○ 木の上に雪が積もっているのに気づき、木から離れて無事だった。落雪に気をつけること。



❌ 軒先で遊んでいて、屋根についた氷（つらら）が落ちてきた。頭上に気をつけること。



○ 家の中で過ごしている。大雪の日は無理に外出せず家の中で過ごす。



❌ 除雪車が近づいているのに気付かず、除雪した雪に巻き込まれた。除雪車からは離れる。



❌ 雪下ろしをしている下を通り、落雪に当たりそうに。屋根から離れたところを通るようにする。



❌ 除雪した雪の陰から周りを確認せず道路を渡ろうとした。普段よりも見通しが悪いので注意を。



❌ 道路を走っていたら、路面が凍っており、すべって転倒した。歩幅を小さくして歩くこと。



❌ 川や池の近くで遊んでいると、滑って落ちてしまう危険があります。川や池には近づかないように。



❌ 雪が積もった丘でそりで遊んでいて車にぶつかりそうに。車の通る場所では遊ばないように。

先生方へ

積雪・降雪時には、雪によって視界が見えづらくなったことによる事故が発生しています。子どもたちへ注意を促すとともに、先生や保護者の方自身が除雪作業をしたり運転をしたりする際、周囲に子どもがいないかどうか、しっかり確認するようにしましょう。雪下ろしをする際は、必ず2人以上で行うことも大切です。



ぼうさいまちがいさがし

## きけんはっけん!

2018年8月発行

企画・制作：日本赤十字社、特定非営利活動法人プラス・アーツ

監修：防災&情報研究所

イラスト・デザイン：北谷彩夏

〔発行〕

**日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部 青少年・ボランティア課**

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3

TEL: 03-3437-7083

FAX: 03-3432-5507

MAIL: rc-junior@jrc.or.jp

URL: <http://www.jrc.or.jp>

### 特定非営利活動法人プラス・アーツ

神戸事務所

〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4

デザイン・クリエイティブセンター神戸307

TEL: 078-335-1335

FAX: 078-335-1339

MAIL: [info@plus-arts.net](mailto:info@plus-arts.net)

URL: <http://www.plus-arts.net>

東京事務所

〒135-0021 東京都江東区白河3-7-6

白3木下ビル101

TEL: 03-6458-5375

FAX: 03-6458-5376

MAIL: [tokyo@plus-arts.net](mailto:tokyo@plus-arts.net)

「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!」は、日本赤十字社と特定非営利活動法人プラス・アーツの共同制作物であり、いかなる無断転載、または営利を目的としたコピー、複製を禁じます。コピーによる利用は、幼児教育、学校教育、家庭での学習、地域での防災イベントなどでの利用に限ります。

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society



+*arts*  
NPO法人 プラス・アーツ